

# 日蓮大聖人御書全集

くぼのあまごぜんごへんじ

## 窪尼御前御返事

こうようぜんこん こと

(孝養善根の事)

新版  
1974  
〜  
1975

くぼのあまごぜんごへんじ こうようぜんこん こと

# 窪尼御前御返事 (孝養善根の事)

こうあん 弘安 ねん 2年 (79)

5月4日

がつ 5月 にち 4日

58歳

さい 58歳 くぼのあま 窪尼

ごくよう 御供養の物、もの 数のままにたしかに給び候。

た 5月4日 とうじ 58歳 ごがつ 窪尼

比おいにて、民のいとまなし。その上、宮の造営にて候なり。

ころ 比 たみ 民の いとま 暇 うえ 上 みや 宮の ぞうえい 造営 そうろう にて候 な な

り。かかる暇なき時、山中の有り様思いやらせ給いて送り

いとま 暇 とき 時 さんちゆう 山中 あ の さまおも 有り様 たま 思い おく やらせ おく 給いて おく 送り

たびて候こと、御志殊にふかし。

そうろう たびて候 おんこころざし 御志殊 深 にふかし。

阿育大王と申せし王は、この天の日のめぐらせ給う

あいくだいおう 阿育大王 もう と申せし王 てん は、この天 ひ の日 めぐ のめぐらせ たま 給う

一閻浮提を大体しろしめされ候いし王なり。この王は、昔、

いちえんぶだい 一閻浮提 だいたい を大体 しろしめ しろしめ され され 候いし 候いし 王なり 王なり。この王 おう は、昔 むかし、

徳勝とて五つになる童にて候いしが、釈迦仏にすなごの

とくしょう 徳勝 いつ とて五つ わらへ になる童 そうら にて候 いしが いしが、しゃかぶつ 釈迦仏 すなご にすなごの

徳勝とて五つになる童にて候いしが、釈迦仏にすなごの

餅進

故

だいおう

もちいをまいらせたりしゆえに、かかる大王と生まれさせ

たも わらへ

こころ

戯

給う。この童は、さしも心ざしなし、たわぶれなるよう

そつひ

ほとけ

にてこそ候いしかども、仏のめでたくおわすれば、わず

物

そうろう

かのこともものとなりて、かかるめでたきこと候。まし

ほけきよう

ほとけ

勝

たも

ほし

つき

灯

て法華経は仏にまさらせ給うこと、星と月と、ともしびと

ひ

おんこころ

勝

そうろう

日とのごとし。また御心ざしもすぐれて候。

こにゆうどうどの

ほとけ

成

たも

いちにん

されば、故入道殿も仏にならせ給うべし。また一人お

姫 ごぜん

命

幸

わするひめ御前も、いのちもながく、さいわいもありて、

ひと

娘

聞

たも

とうじ

幼

さる人のむすめなりときこえさせ給うべし。当ても、おさな

けれども、母を掛けてすぐす女人なれば、父の後世をもたす  
くべし。

唐 西 施 もう によにん 若 菜 やま 摘 老

から国にせいしと申せし女人は、わかなを山につみて、お

母 養 てん 哀 えつおう もう だいおう

いたるはわをやしないき。天あわれみて、越王と申す大王の

狩 たま 后

かりせさせ給いしが、みつけてきさきとなりにき。これも

親 養 によにん てん 守

また、かくのごとし。おやをやしなう女人なれば、天もまぼ

たも ほとけ そうろう いっさい ぜんこん なか

らせ給うらん、仏もあわれみ候らん。一切の善根の中に、

こうようふぼ だいいち そうろう ほけきょう

孝養父母は第一にて候なれば。まして法華経にておわす。

こがね 器 物 清 みず い

金のうつわものにきよき水を入れたるがごとく、すこしも

漏

もるべからず。めでたし、めでたし。

きようきようきんげん  
恐々謹言。

ごがつよっか

五月四日

にちれん

日蓮

かおう

花押

窪 あまごぜんごへんじ

くぼの尼御前御返事